六十里越街道観光開発事業

「未知の可能性を秘めている六十里越街道事業に挑戦」

出羽商工会（平成十九年度まで朝日村商工会）が千二百年の歴史を誇る「出羽の古道・六十里越街道」の観光振興に取組んで九年目を迎えます。出羽三山への信仰の道、戦国戦乱時代の軍路、庄内と内陸の物流交易の道として多面的な役割をもった六十里越街道は、山形県の中央を横断する中核的な街道でした。明治時代以降は自動車の普及、国道の改良等により、街道としての機能は薄れ、長い時間忘れ去られていたのです。

この街道を商工会有志が地域資源として、観光振興事業に活用しようと取組んだのが「六十里越街道観光開発事業」です。街道の保全活動から始まり、トレッキングや街道を活用したイベントの開催、情報ツールや関連商品の開発等、幅広く事業に取組んできました。

今年度もトレッキング事業は十一月十三日で終了しましたが、春のスタート時から全国各地からたくさんの方々が参加しています。年間、四千人以上が歩いており、年々増加している状況であり、朝日地域における経済的メリットも大きくなっています。

県内外から多数のトレッカーが訪れた
秋の六十里越街道

十月二十九日には「とうほく風景街道会議第六回交流会」が開催され、国交省や県、市町、東北六県の街道関係者が多数参加され、六十里越街道の魅力を広く発信しました。十一月十一日には街道整備活動がたくさんのボランティアの協力により関谷集落近くの街道整備、湯殿山有料道路交差点の整備が実施されました。翌日は、長年懸案事項であった国道一一二号月山道路横断施設整備について、三百三十名の署名簿を添えて国交省東北地方整備局局長及び道路部長へ要望書を提出しました。着々と六十里越街道の観光振興は進化しています。

先に世界文化遺産に登録された紀伊の「熊野古道」と比較しても、その歴史、文化、四季の変化等の魅力は未知の可能性を秘めている観光資源であると多くの方々から評価されており、今後、官民一体となった取組みにより、鶴岡市はもちろん山形県を代表する文化・観光資源として地域経済に果たす役割を期待せずにはいられません。

（朝日支所　安達）

毎年、街道の保全活動に取組む
アルゴディア研究会とボランティア

－消費者問題出前講座－

◆消費者問題について分かりやすくお話します◆

○問題商法・悪徳商法に関すること　○多重債務問題に関すること
○その他、契約上のトラブルに関すること

お問合せ先：特定非営利活動法人　ライフサポート庄内
Tel:0234-45-1362　　Fax:0234-45-1374